ユニセフ 子どもネットニュース

2003夏 NO.5

発行者 ユニセフ子どもネット事務局　財団法人 日本ユニセフ協会　広報室　〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス
でんわ：03-5789-2016　ファックス：03-5789-2036　電子メール：jcuinfo@unicef.or.jp

TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS

ユニセフトピックス

ALGERIA

アルジェリア
地震の被害が広がる

5月21日、マグニチュード6.7の地震がアルジェリア北部を襲いました。震源は、首都アルジェの東80kmの地点で、首都をはじめ広い範囲で大きな被害が出ています。

これまでに3000人近い人びとが亡くなり、8000人以上がけがをしました。ひどいところでは街の80％が破壊されてしまったところもあります。病院も使えなくなり、病気やけがの治療、保健サービスの提供ができなくなっています。また、水や衛生施設もこわれてしまったことから、水不足や、衛生環境の悪化による子どもたちへの病気の広がりが問題になっています。また、多くの子どもたちが、地震の恐ろしい体験によって、心に傷を負い、心のケアが求められています。しかし、地震の後、多くの学校が休校となっています。

ユニセフは災害の直後から、政府やNGOと協力して、緊急支援活動をはじめました。5月26日現在、緊急保健キットや病院用のテント、安全な出産用のキット、2500人の子どもと1000人の赤ちゃん用の毛布、7000リットルのミルク、おむつ7000箱などが、すでに現地に届けられています。

アルジェリア

INDONESIA

インドネシア・アチェ州
紛争で学校が燃やされる！

燃やされた学校　©AFP

インドネシア、スマトラ島の北部にあるアチェ州では、インドネシアからの独立を求めて、武装組織自由アチェ運動がインドネシア政府としばしば対立してきました。今年の5月に入って、この対立が激しくなり、インドネシア軍との紛争に発展しています。この中で、自由アチェ運動は、この地域の学校を焼き払い、300近くの学校が焼かれたり、破壊されたりしました。430万人の人口のこの州で、2万3000人の子どもたちが家を追われています。ユニセフやインドネシア政府は、3ヶ月以内に30万人の人びとが避難民となってしまうかもしれないと予測しており、およそ6万人の子どもたちがこの紛争によって影響を受けています。

5月23日の時点で、ユニセフは、1万5000人の子どもたちに学校セットを300個、緊急の学校用テントを50張り、そのほかに、緊急保健キットや衛生キットなどを届けています。

こうした緊急支援を進めると同時に、何よりも平和を築くことが第一とうったえています。そして、戦争で被害を受けた子どもたちが、ワークショップに参加できるようにしたりして、子どもや子どもの権利を守るしくみを地域につくる活動などが計画されています。

インドネシア

AFGHANISTAN

アフガニスタン
「子どものための連帯の日」

Back to School

戦争からの復興にとりくんでいるアフガニスタンで、5月20日、カルザイ大統領がこの日を「子どものための連帯の日」に定めました。「子どものための連帯の日」は、これまでの予防接種や教育など子どもの権利を守るためのさまざまな活動を記念し、また、さらに国中が協力して子どもたちのための活動をすすめていくことをめざしています。

学校の子どもたちもこの日を祝いました。昨年から続いている「バック・トゥ・スクール（学校にもどろう）」キャンペーンによって、今年は420万人の子どもたちが小学校に通うことができるようになるとユニセフは考えています。とくに今年は、女の子たちが学校に通えるようにすることが課題です。

また、5月20～22日にかけて、2003年になって2回目の「全国予防接種デー」がおこなわれ、600万人の子どもたちがポリオの予防接種を受けました。1999年には150件のポリオ感染が報告されていましたが、昨年、その数は10件まで減りました。また、1軒1軒をまわって1歳未満の子どもたちすべての情報を集め、出生登録する作業もはじめておこなわれました。

「子どものための連帯の日」を祝う学校の子どもたち
アフガニスタン北東部のバグラン県で
©UNICEF Afghanistan/Kagoshima

アフガニスタン

STORY

アフガニスタン

©UNICEF Afghanistan/Kagoshima

12歳になったザハラの髪はまだ短いままです。アフガニスタンの北東部、バグラン県プリクムリの町のビビ・アイシャ・シディカ女学校の8年生になったザハラには、これまで秘密がありました。

去年、戦争によってアフガニスタンを支配していたタリバン政権がなくなるまで、女の子は学校に行くことが禁止されていました。でも、ザハラはどうしても学校に行きたかったのです。そして、ひとつのアイディアが浮かびました。「そうだ、男の子になって学校に行けばいい！」

この考えをお父さんに話すと、お父さんは「うーん」と考えこんでしまいました。とても危険なことだとわかっていたからです。お母さんは「そんなことはできないわ」と、心配しました。でも、最後にお父さんは、「本当に行きたいんだね。ならば、行ってみなさい」と言ってくれたのです。

髪を切って、男の子の服を着て、名前もザイヌディンと男の子の名前に変え、ザハラは学校に通い始めました。友だちにも先生にも秘密です。じつは、校長先生だけは、ザハラが女の子だと知っていました。でも、何も言わず、ザハラが学校に通うことをゆるしてくれたのです。

お昼には礼拝をします。礼拝の前には上着を脱いで体を清めます。「もし女の子だとばれてしまったらどうしよう。すごく心配で、こわかった」とザハラは話します。

それから4年、戦争がおわり、去年からは女の子も男の子も学校に通えるようになりました。だんだんと子どもたちが学校にもどり、ザハラの暮らすバグラン県にも女学校ができました。

ザハラはもう男の子でいなくてもよくなり、この春から女学校に通いはじめました。新しく通う女学校の校長先生は、ザハラを女の子と知りながら見のがしてくれたあの校長先生です。

右から、ザハラのお母さん、お父さん、ザハラ、
校長先生、お姉さん
©UNICEF Afghanistan/Kagoshima

ザハラはうれしそうに話します。「将来は、アフガニスタンで最初の女性のパイロットになりたいの」ザハラの秘密は、今ではみんなの笑い話になりました。

（ユニセフ・アフガニスタン、クンドゥス事務所 教育担当官 篭嶋真理子さんのお話より）

もくじ

ユニセフトピックス 1
「イラク戦争」ユニセフ子どもネットワーカーからの意見 2-3
地図で見る世界の子どもたちのようす～「国連子ども特別総会」から1年～ 4-5
「世界子ども水フォーラム」に子どもネットワーカーが参加したよ！ 6-7
REPORT&INFORMATION 〈報告とお知らせ〉 8

イラク戦争

ユニセフ 子どもネットワーカーからの意見

2003年3月20日（日本時間）にイラクではじまった戦争は、アメリカのブッシュ大統領が、5月1日に戦闘が終結したことを発表したことで終わりを告げました。独裁者だったサダム・フセインの政権はたおされましたが、イラク国内は、戦闘でさまざまな施設が破壊されただけでなく、ひどい略奪などがおこって治安が悪くなり、子どもたちにも大変厳しい状況がつづいています。

©UNICEF/HQ03-0109/Shehzad Noorani

今のイラクの子どもたちのようす

戦争がはじまる前から食糧の配給にたよっていた人びとは、戦争や治安が悪くなったために十分な食糧が手に入らなくなりました。そのために、子どもの栄養不良が急速に進んでいます。ユニセフが首都のバグダッドで緊急におこなった調査によると、急性の栄養不良になっている子どもの割合は、昨年の2倍近くになっていることがわかりました。

イラク国内では水と衛生環境の悪化が深刻になっている
©UNICEF/HQ03-0210/Patric Andrade

とくに南部では水の問題が深刻になっています。水道局も略奪され、水を送り出すのに必要な電力を生み出す発電器や水の浄化剤などもうばわれてしまいました。水道管の途中に穴をあけ、水を盗む人もいます。そのため、南部の都市部では、水道から安全な水が手に入らなくなり、子どもたちのげりが急激に増え、脱水症状で亡くなっている子どももいます。また、コレラなどの病気の広まりが心配されています。

バグダッドのごみ捨て場にあったさまざまな種類の爆弾や不発弾
©UNICEF/HQ03-0209/Patric Andrade

病院も略奪されました。だんだん、支援物資が届くようになってきましたが、まだ基本的な医薬品も不足しています。治安が悪いために、多くのお医者さんは避難していて仕事にもどれず、少人数のお医者さんが何十人もの患者をみなければなりません。

また、不発弾などが多く残っていて、子どもをおびやかしています。水くみやたきぎひろいをしている間や、遊んでいる間にこうした不発弾でけがをしたり、命を失う子どももいます。

ストリートチルドレンのためのセンター
略奪によってすべて奪い去られました
©UNICEF/HQ03-0180/Roger Lemoyne

ユニセフの活動

戦争がはじまる前、ユニセフは「平和こそユニセフの願い」として、戦争をさけるようにうったえつづけてきました。しかし、現実には戦争の危機が高まっていたため、今年はじめ、予定を前だおしにして、子どもたちへの大規模な予防接種キャンペーンをおこないました。いったん戦争がはじまってしまえば、予防接種をするのはむずかしくなり、戦争の中で、はしかなどの病気が広まって子どもたちの命をうばう危険があったからです。また、医薬品や子どもたちの食糧（高たんぱくビスケットや栄養を強化したミルク）、水のタンクなど、必要な支援物資を大量に国内や周辺の国に備蓄しました。

戦争のはじまる直前、国連の決まりによって国際スタッフはイラク国内から退避しました。しかし200人以上のイラク人スタッフが国内に残って、子どもたちに支援物資を届ける活動をつづけました。

戦争がはじまる前にポリオやはしかの予防接種が進められました
©UNICEF/HQ03-0037/Shehzad Noorani

戦争が終わるころから、だんだんとクウェート、ヨルダン、イラン、トルコなどの周辺国からの支援物資を国内に届け入れられるようになりました。たとえば、5月のはじめには、クウェートからイラク南部に、ユニセフの給水車が日に70台近く出され、200万リットル以上の水を届けています。また、医薬品などの支援物資も病院に届くようになりました。

北部では学校が再開されました。ユニセフは学用品などを届けて、これを支援しています。また、バグダッドや南部でもだんだんと学校が再開されつつあります。学校がはじまれば、子どもたちに不発弾の危険を教えたり、心に傷をおった子どもたちをケアすることもできるようになります。ユニセフはこうした面からの支援もおこなっています。

保健センターに届いた高たんぱくビスケット
©UNICEF/HQ03-0214/Patric Andrade

5月19日、首都バグダッド近くで再開された学校を訪れたユニセフ事務局長
©UNICEF/HQ03-0222/Shehzad Noorani

イラクの最新情報は、ホームページでチェック！

http://www.unicef.or.jp

*イラク緊急募金も受付中です

STORY ムンゼールと仲間たち

建物は修理できても、大きな恐怖と不安におそわれた子どもたちの心は、すぐにはなおりません。そんな子どもたちのもとに、今日ユニセフからの支援物資が届いたのです。

ムンゼールは、イラク南部の町バスラにある男の子の孤児院で、友だちから少しはなれたところに立っていました。ちょうど1時間前にユニセフのレクリエーションキットが届き、友だちは、新しいサッカーボールをけりあって遊んでいます。ムンゼールはようやくここに帰ってくることができたのです。

この数週間に、14歳の少年ムンゼールの身の上に起こったできごとはあまりにも過酷でした。

イラクで孤児院などの施設でくらす子どもたちの状況は、イラク戦争がはじまる前もひどいものでした。今は、国からのわずかな支援さえ受けられなくなり、食事も近くの宗教グループが提供してくれる給食にたよっているありさまです。さらに悪いことに、略奪者たちが、こうした施設まで標的にしたのです。銃や爆弾をもった人たちがやってきて、29人の男の子たちの目の前で、施設にあるすべてのものを―扇風機や家具、電気の配線やヒューズまで―うばい去りました。

ユニセフは、孤児院の修復のために活動しています。でも、ムンゼールがこの孤児院にやってきたのは1歳のとき。お母さんは、お父さんに暴力をふるわれることを苦にして自殺し、そのすぐ後、今度はお父さんが、犯罪をおかして終身刑になりました。戦争がはじまる直前に、サダム・フセインは犯罪者すべてを釈放しました。ムンゼールは、釈放されたお父さんとくらすために、いったん孤児院を出ました。しかし、いい時はほんの数日もつづかず、結局、ムンゼールはお父さんに捨てられ、ひとりで街にいるところを保護されて、この孤児院にもどってきたのです。

それからというもの、ムンゼールのようすが変わりました。ひどく怒りっぽくなり、孤児院の戸棚からものを盗んだりするようになりました。そして、あるとき、事件が起こりました。ムンゼールとけんかになった男の子の腕が折れてしまったのです。

業を煮やした孤児院長は、ムンゼールを孤児院から出す、と決めました。ムンゼールはまた街にもどるしかありませんでした。

翌日、ユニセフ・イラク事務所の子どもの保護担当官ガッサンは、ムンゼールがこっそりと孤児院をのぞいているのを見つけました。

「あれは、わざとやったわけじゃないんだ。孤児院にかえりたい…」ムンゼールは悲しそうに話しました。

孤児院の仲間たちが集まる中で、ムンゼールは、「昨日の夜はごみ捨て場ですごしたんだ。ここにもどってきたいんだ」と話しました。そして、孤児院長や仲間たちが話し合い、ムンゼールは帰ってきてもいいことになったのです。

長い1日の終わりに、男の子たちは、レクリエーションキットの中に入っていた、赤と黄色のゼッケンを取り出して、それぞれのサッカーチームの名前を決めはじめました。

「赤はマンチェスター・ユナイテッドの色だろ」とひとりの男の子が言います。「ちがうよ」ほかの子が声をあげました。「レアル・マドリッドだよ」笑い声がひびきます。いつのまにかみんなの輪の中に入ったムンゼールの顔にも明るい笑顔がもどってきていました。

ユニセフ子どもネットワーカーからの声

「イラク戦争」。子どもたちは、この戦争のことをどのように考えたのでしょう。
ユニセフ子どもネットでは、このテーマについてアンケートをおこないました。
多くのネットワーカーから届いた声をご紹介します。

質問の内容

この戦争について考えたこと、感じたこと、印象に残っていること、この問題にかかわっているだれかへの意見など、なんでも教えてください。
これから、この問題について、何かしたいと思っていますか？　子どもたちにはどんなことができると思いますか？

戦争中の子どもの写真は皆同じような目をしていると思いました。必死に生きていこうとしている強い目ですが、恨んでいる目でもあります。子どもの私達ができることは、ものすごく悔しいけれど、未来のために勉強することしかできません。私達はイラクの子ども達の心を考え、思い、想像することはできます。同じ子どもですから。

（多田　真理馨　12歳）

ある写真展で、白血病で入院しているイラクの子どもの写真を見ました。今回の戦争前のもので、いくらか整った医療施設に見え、安心しました。ところが、最近のテレビのニュースを見て驚きました。略奪が繰り返され、とうとう病院の薬品や医療器具にまで手を出してしまっていたのです。戦前に入院していた子ども達は、どうしているのかが気になります。

（N.啓子　15歳）

アメリカが使った武器の中に、放射能を出すものがあって、それは攻撃された場所に、いつまでも放射能の影響が残る。これは核兵器のひとつではないのか？イラクの核兵器を見つけ、それをすてさせる目的で戦争をしたのに、自国が核兵器を使うなんて、矛盾している。

（今関　美都　13歳）

平和を守るためになぜ戦争をするのですか？人が殺されることの、殺すことの、どこが平和なのですか？

（西脇　葉子　12歳）

小さい子どもなど一般の人が誤爆によってたくさん亡くなっているのが、すごく悲しいし、残念でした。戦争によって、フセイン大統領の政権はつぶれたけど、アメリカが主張した大量破壊兵器がまだ見つかっていないので、戦争をやってよかったのか分かりません。

（兼松　美緒　16歳）

ブッシュ大統領には、もう少し話し合いの期間を与えてもらいたかったです。話し合いによって、もしかしたら戦争を防ぐことができ、平和を築くことができたかもしれない、と私は思うからです。

（大屋　このみ　17歳）

おとなは、子どもには、「けんかしちゃだめよ」と言うのに、せんそうをしている。ブッシュ大とうりょうや、フセイン大とうりょうなどのえらい人ははにげのびれるかくりつが高いけど、いっぱんの人はせんそうでしんでしまうかくりつが高いというのが、とてもかなしかったです。

（桜井　香澄　8歳）

ブッシュ大統領への意見：核・生物化学兵器をもっているからだとか、イラク国民をかいほうするため、とかいってたけど、本当は、石油がほしかったんじゃないですか？

（杉浦　健吾　11歳）

ぼきんをしたり、ニュースや本などで今、世界でどんなことがおきているのかを知るだけでも、私たちと同じ、ただ生まれた国がちがうだけの子どもたちに手をさしのべることにつながると思います。

（朝隈　芽生　12歳）

今子どもであるぼくたちが、立派なおとなになって、戦争のない未来を作ることが大切だと思うので、子どもたちが「他人を思いやれる」「戦争はよくない」「人の意見が聞ける」「公平である」といったことなどを学べる機会を作ればよいと思います。日本には、いろいろな組織があって、それぞれ行動を起こしているけど、すべてのNGOやNPOが手をつなげば、大きなことができるのにな、と思います。

（大矢　透　14歳）

子どもたちはなにもしていないのに、子どもたちのところに、ばんばん、ばくだんがふってくるのは、かわいそうなことでした。わたしは、イラクの子どもたちを日本にひなんさせてあげたいと思います。

（廣瀬　智美　8歳）

月に1回、かいたいおもちゃをがまんして、せんそうしている国にお金のプレゼントをしたいと思いました。そして、その国に学校をプレゼントしたいです。その生とたちと、手紙でいろいろなことをいっしょに考えたいです。

（由水　蕗花　8歳）

世の中で「正義」とされていることが本当に「正義」なのか、「正義」は存在するのか、と思いました。また、戦争は弱者が犠牲になるとも感じました。独裁体制は危険だし、多くの犠牲をともなう。結局、どんなにがんばっても政治対立はさけられないから、それが熱い戦争になったとき、いかに弱者を守るか、それが重要だと思いました。

（鈴木　智瑛　14歳）

©UNICEF/HQ02-0558/Shehzad Noorani

フセイン大統領の像がたおされたときが、一番印象に残りました。これでやっと国民が自由になれるのかという、なんていうか、言葉で言い表すことが難しい気持ちになりました。国民はこれで自由になれたけど、これからどうやって国をたてなおしていくのか、という疑問も生まれました。アメリカがやるより、国連がやった方がいいと思います。

（澤田　玲奈　13歳）

事態が緊迫した状態に陥ってから、開戦に至るまで、世界中で多くの反戦デモが行われたにも関わらず、国連の決議も待たれることなく、簡単に戦争がはじまってしまったことにショックを受けました。戦争は終結宣言が出されましたが、まだ終わっていない、ということを子どもの視点からアピールしていきたいです。

（坂　季里子　17歳）

テレビで、イラクに住む私と同じ年の少女のことを見ました。その少女は、戦争に使われた小型爆弾によって視力をほとんど失った上、まだ不発弾があるので、学校に行きたくても行けないというのです。私たちの歩く道は安全だし、舗装されていて歩きやすく、学校にも行けます。それが当たり前の生活になっています。戦争は当たり前の生活を一変させる、そのことの恐ろしさを知りました。

（中村　翔也　12歳）

まず、イラクの現状を正確に知ることが必要だと思う。そして、たくさんの人々に事実を知ってもらって、これからどうすれば平和になるかを考えてもらうことが必要だと思う。だから、「ユニセフ子どもネット祭」を開催するというのは、どうでしょうか。パネルか、自分達が考える平和になる方法（?）などを展示するのです。それから、募金も集めます。ユニセフのグッズや食べ物なども売って、その利益を全額イラクの子どもたちのために!!というのはどうでしょう？

（松井　佳菜　15歳）

私達、子どもにできることは、世界の子ども同士で仲良くなることだと思います。アメリカの子ども達とイラクの子ども達で、サッカーをしたり、野球をしたりして、それを

TV放送すれば、戦争に賛成していたおとなの人達も、何か大切なことに気づくのではないかと思います。

（輿石　夕貴　17歳）

犠牲者を救う手は誰がさしのべるべきか、全世界で考えるべきだと思います。他人事みたいに思わず、みんな力を合わせて支援すべきだと思います。

（丸竹　拓也　13歳）

はじめ、私は、戦争でしかイラクの独裁政権の問題を解決することができないのではないか、という気持ちを心のどこかに抱いていました。しかし、劣化ウラン弾の被害を受けた子どもたちや、今までの戦争によって被害を受けた環境・生き物について知るうちに、決して戦争は答えにならないのだと確信しました。たとえどのような理由があっても、人類は“戦争”をひとつの手段だと認識すべきでないと思います。人類は、新たな手段を見つけ出さなければいけないと思います。イラク戦争の報道を見ながら、何もできない自分が情けなくなり、また、人々の死をすんなりと受け入れてしまえる自分を悲しく思いました。でも、希望を持って問題を直視し、行動していかなければいけないのだと思います。

（楢原　知枝　16歳）

わたしは春休みに、自しゅべん強として、新聞の切りぬきをつかって、せんそうについてのかべ新聞を作りました。学校に持って行くと、クラスの先生が、クラスの友だちに、しょうかいしてくれました。わたしは、これからも毎日とどく新聞を使って、かべ新聞を作っていけたらいいなと思います。そして、みんなが少しずつでも色色と考えてくれたら、うれしいと思います。

（藤島　百花　8歳）

せんそうをするのではなくて、はなしあえばよかったと思います。

（比留間　光子　7歳）

平和を願うための戦争とは、本当にいいことなのか、それとも悪いことなのか、とてもなやみました。第一、フセインはどうして独裁してしまったのでしょうか？　それをおさえるためには、やはり戦争という手しかないのかもしれません。たくさんの人々の命が失われ、身も心も傷ついていくのに、これしか方法がないなんて、悲しいです。フセインは、こんなことまでやらないといけなくなったことを思い知ってほしいです。

（遠山　優香　13歳）

アメリカに戦争をやめさせることのできる人がいなかったのはどうしてだろう。フセインもへいたいだけつれてにげるのはいけない。ふつうの人はしんでいるんだぞ。小泉さんも、ブッシュさんも、ブレアさんも、アメリカにかってほしい人びとも、へいたいはしんでいるんだぞ。みんながすきなら、せんそうをやめてほしい。

（加藤　諒一　8歳）

イラクがどこにあるのかも分からなかったし、はっきり言って、戦争なんてなんなのか、さっぱり分かりませんでした。でも、ニュースをよく見てみると、大変なことが起こっているのだと気付きました。もし突然、日本が戦争にあい、毎日食べるものがなく、町がどんどん破壊されてしまったら…と考えると、とりはだがたつくらいおそろしくなります。

（原口　紗耶加　12歳）

アメリカ人はこの戦争をイラクをフセイン大統領の独裁から解放する「正義の戦い」だと主張しました。果たしてこれは正義なのか、と私は考えました。アメリカは、自分達のやり方を押し付けて、しかも戦争にまでもちこんで、それが終わったら、自分達で仕切ろうとして、イラクを自分達の思う「正しい国」にしようとしているように思えてなりません。大量破壊兵器を持っているのは、アメリカだって同じはずです。私は何が正義かなんて誰にもわからないよな、とこの戦争を通じて強く感じました。

（大平　乃里恵　17歳）

地図で見る世界の子どもたちのようす

国連子ども特別総会から1年

どんな前進があっただろう

2002年5月、ニューヨークでひらかれた「国連子ども特別総会」には、190カ国からさまざまな参加者およそ7000人（中には600人の子どももふくまれていました）が集まりました。熱気につつまれた話し合いの後、子どもたちのために世界がこれからすることを約束した文書「子どもにふさわしい世界」が全会一致で採択されて、参加者たちは、それぞれの国に帰っていきました。

それから1年。「子どもにふさわしい世界」では、各国が、2003年の終わりまでに期限や目標を定めた子どものための“国内行動計画”を、市民社会やNGO*、そして子どもたちと協力してつくるように決めています。たとえば、命を失う赤ちゃんや子どもの数が多い国では、その数や割合を、いつまでに、どれだけ減らすか目標を立てて、その実現のために何をするかという計画を細かにつくっていくのです。

＊NGO：非政府組織。政府の機関や企業ではない、民間の団体。社会の問題を解決するためなどに活動する。

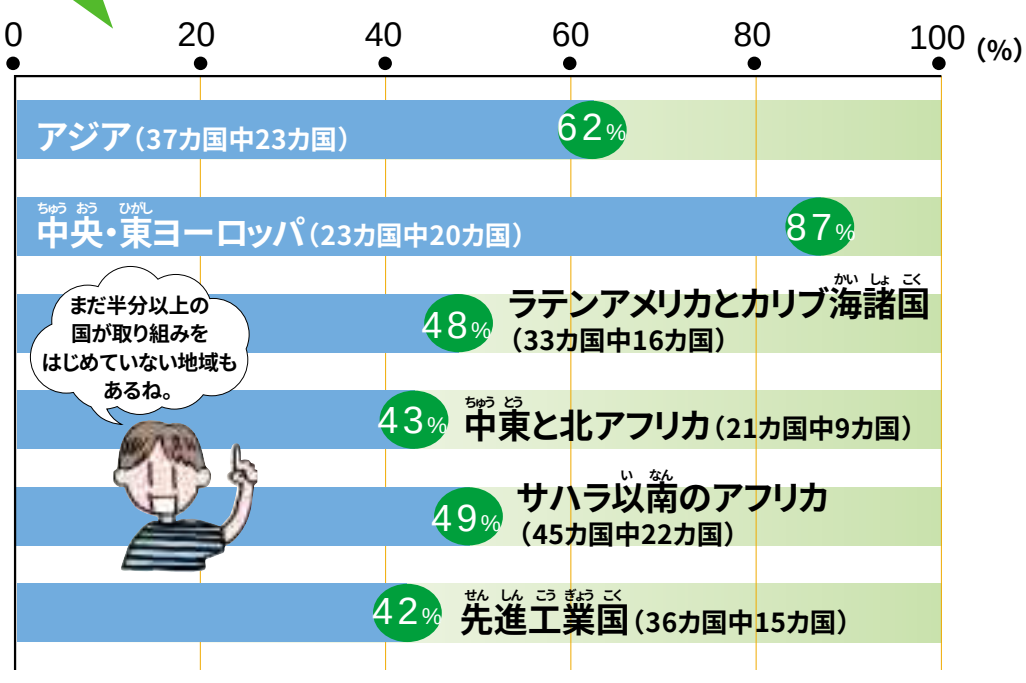
「子どもにふさわしい世界」のくわしい内容は、「ユニセフ子どもネットニュースNo.2」の特集記事を読んでください。

各国は総会の後、どのように取り組みをはじめているのでしょう。そして日本は、今、どのような状況でしょう？

2003年4月末までの状況

- 26カ国が子どものための新しい国内行動計画を作り終えたり、草案を完成させたりした
- 26カ国が、国内行動計画をつくる取り組みをはじめている
- 13カ国が、すでにある国内行動計画を見なおして新しくした
- 35カ国が、すでにある国の計画や政策の中に、国際的な取り決めを盛りこんだ
- 23カ国が、総会の取り決めにもとづいて行動するために、さまざまな機関と協力して子どものための委員会をつくったり、その役割を強めたりした

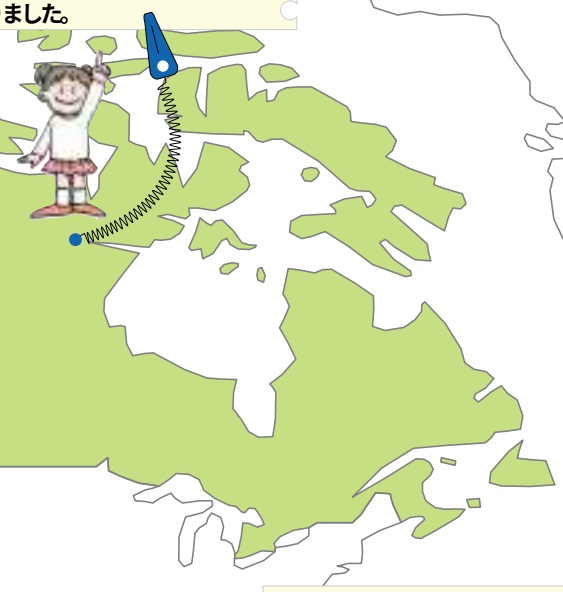
取り組みをはじめている国の割合を地域別に見ると…



子どもについ

カナダでは…

2002年8月に「国連子ども特別総会」に参加した子ども代表が、どのようにしたら子どもたちがフォローアップの中で意味のある参加ができるかを話し合いました。そして、人びとの意識を高めるために、子どもと若者からなる小グループが結成され、政府やNGOのおとなたちと一緒に活動することになりました。



ガンビアでは…

政府が、国内の子どもについてのデータを集める力や、それを分析して使っていくための力を強めるための取り組みをはじめています。子どもの問題を正確に知るために、これはとても大切なことです。政府は子どもについての国家的なデータベースをつくって、目標に対する進み具合などを見られるようにする予定です。

「子ども国会」の意見がとりいれられた！

［トルコ］

トルコの国会に子どもたちの声がひびきます。「戦争は人間が起こす災害です。子どもたちを直接的にも間接的にも傷つける、最悪のものです。わたしたちは、子どものコンピュータゲームやおもちゃに暴力をけしかけるものがあることを忘れてはなりません。子どもたちをそうしたものから守るように、一緒によびかけましょう」

トルコでは、2002年から「子ども国会」がひらかれています。国内の81の地域からそれぞれ選ばれた9歳から17歳の子ども議員55

って議論をします。代表

くまれています。

2003年4月20日か

2回子ども国会では、「

た「子どもにふさわしい

つくったトルコの国内行

を付け加える作業

「子ども国

あるウルファの

議員によって

ような点

表され

●女の

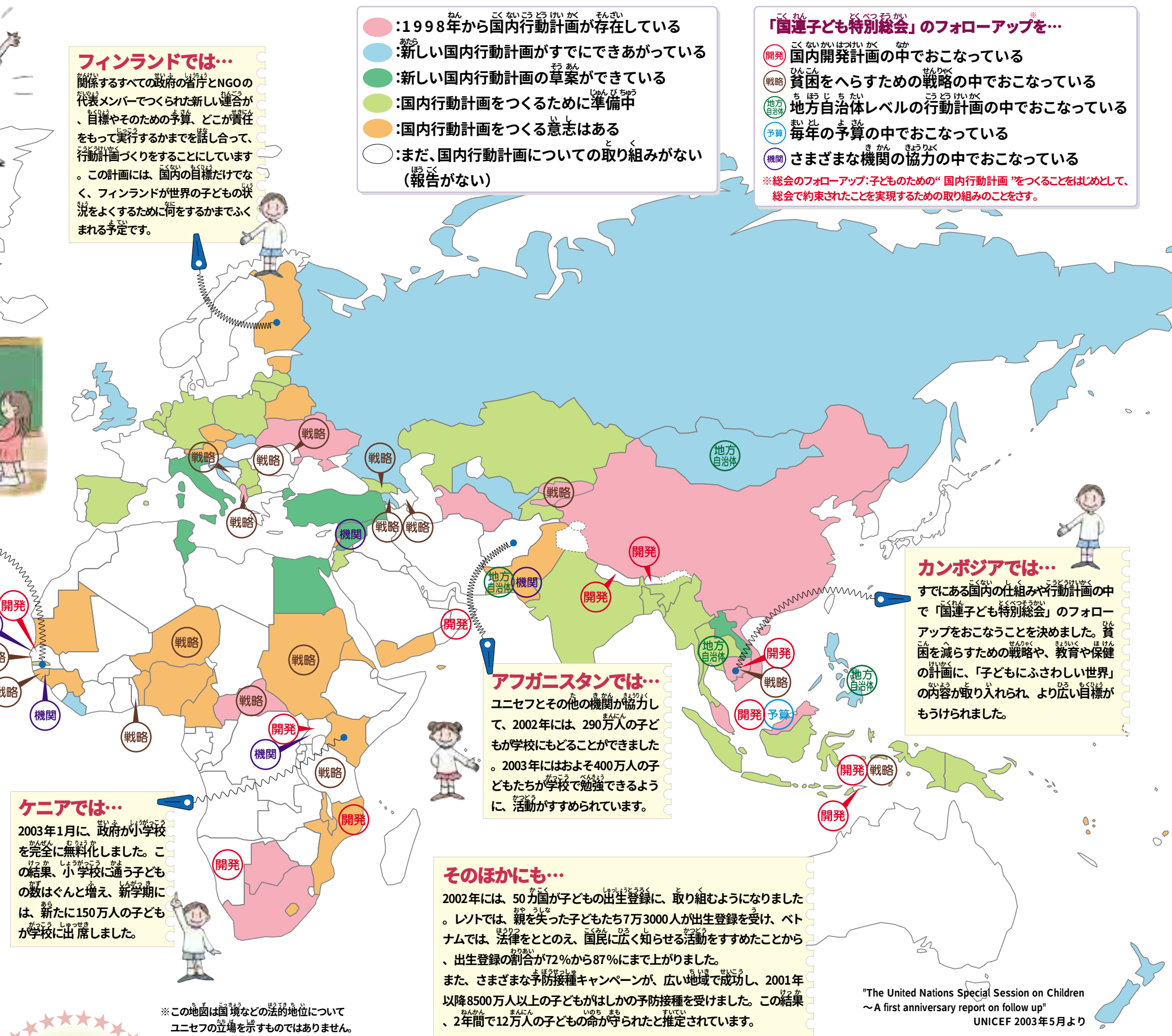
いての“国内行動計画”がつくられている国

- :1998年から国内行動計画が存在している
- :新しい国内行動計画がすでにできあがっている
- :新しい国内行動計画の草案ができている
- :国内行動計画をつくるために準備中
- :国内行動計画をつくる意志はある
- :まだ、国内行動計画についての取り組みがない（報告がない）

「国連子ども特別総会」※のフォローアップを…

- 開発 国内開発計画の中でおこなっている
- 戦略 貧困をへらすための戦略の中でおこなっている
- 地方自治体 地方自治体レベルの行動計画の中でおこなっている
- 予算 毎年の予算の中でおこなっている
- 機関 さまざまな機関の協力の中でおこなっている

※総会のフォローアップ：子どものための“国内行動計画”をつくることをはじめとして、総会で約束されたことを実現するための取り組みのことをさす。



フィンランドでは…

関係するすべての政府の省庁とNGOの代表メンバーでつくられた新しい連合が、目標やそのための予算、どこが責任をもって実行するかまでを話し合って、行動計画づくりをすることにしています。この計画には、国内の目標だけでなく、フィンランドが世界の子どもの状況をよくするために何をするかまでふくまれる予定です。

カンボジアでは…

すでにある国内の仕組みや行動計画の中で「国連子ども特別総会」のフォローアップをおこなうことを決めました。貧困を減らすための戦略や、教育や保健の計画に、「子どもにふさわしい世界」の内容が取り入れられ、より広い目標がもうけられました。

アフガニスタンでは…

ユニセフとその他の機関が協力して、2002年には、290万人の子どもが学校にもどることができました。2003年にはおよそ400万人の子どもたちが学校で勉強できるように、活動がすすめられています。

ケニアでは…

2003年1月に、政府が小学校を完全に無料化しました。この結果、小学校に通う子どもの数はぐんと増え、新学期には、新たに150万人の子どもが学校に出席しました。

そのほかにも…

2002年には、50カ国が子どもの出生登録に、取り組むようになりました。レソトでは、親を失った子どもたち7万3000人が出生登録を受け、ベトナムでは、法律をととのえ、国民に広く知らせる活動をすすめたことから、出生登録の割合が72％から87％にまで上がりました。

また、さまざまな予防接種キャンペーンが、広い地域で成功し、2001年以降8500万人以上の子どもがはしかの予防接種を受けました。この結果、2年間で12万人の子どもの命が守られたと推定されています。

※この地図は国境などの法的地位についてユニセフの立場を示すものではありません。

"The United Nations Special Session on Children ～A first anniversary report on follow up" UNICEF 2003年5月より

STORY

0人が、実際に国会議事堂に集ま
には、障害のある子どもたちもふ

から2日間にわたってひらかれた第
国連子ども特別総会」で採択され
世界」にもとづいて、おとなたちが
動計画の草案に子どもたちの意見
がおこなわれました。
会」の最後に、トルコの南東部に
の町からやってきた15歳の子ども
発表された宣言では、とくに次の
についての子どもたちの意見が発
れました。
子への教育をすすめてください

- 戦争をみちびくような、暴力をけしかけるおもちゃなどから子どもを守ってください
- 法律をおかしたり、おかしたとされた子どもたちが、ひどく扱われたりしないように、法律をととのえたり、関係するおとなたちのトレーニングが必要です

会議の中では、子どもたちはこんなことも話しています。「わたしたちは、チャンスさえあれば、おとなの国会議員よりもずっとうまく国を治められるでしょう」

自信にあふれた子どもたちの意見は、トルコのおとなたちにもしっかりと受けとめられ、国内行動計画の中にとりいれられることになっています。

日本の子どもの意見を大募集！

日本の国内行動計画について何かできないでしょうか？

日本では、「国連子ども特別総会」の後、何か前進があったでしょうか？「子どもにふさわしい世界」の約束には、日本の子どもにも関係の深いものがたくさん含まれていました。もちろん、日本政府も国内行動計画をつくる予定です。

もし、みなさんが、この国内行動計画をつくることに参加できるとしたら、どのように参加したいですか？　そして、どんな意見を言ってみたいですか？

みなさんの意見を送ってください。もしかすると、ユニセフ子どもネットとして何かできるかもしれません。ぜひ、いろいろな声を聞かせてください。

意見の送り先

ユニセフ子どもネット事務局
郵　便　：〒108-8607　東京都港区高輪4-6-12
ファックス：03-5789-2036
電子メール：jcuinfo@unicef.or.jp

世界の水問題について話し合う「第3回世界水フォーラム」の中の主要イベントとして「世界子ども水フォーラム」（ユニセフなどの共催）が、今年3月18日から22日にかけて、滋賀県と京都府でひらかれました。「世界子ども水フォーラム」には、世界32カ国から12歳から18歳までの子どもと若者109人が参加しました。そして、ユニセフ子どもネットワーカーの大鳥由香子さんと吉田倫哉くんも日本の子ども代表のひとりとして選ばれました。

©UNICEF/HQ99-0958/Jim Holmes

「世界子ども水フォーラム」に子どもネットワーカーが参加したよ！

世界32カ国の109人の子どもたちが『子ども水宣言』を発表

多様な世界を代表する子どもと若者がかかえる問題は、やはり多様でした。ケニアのイボンヌ・マインゲイさん（15）は、「学校に清潔で安全な女子トイレがないために、学校に行けない女の子がいます。水と衛生の問題は女の子の教育とも関わっています」と語りました。韓国から参加したジーワン・キムさん（18）は、「水の問題というと、韓国では汚染など環境問題をイメージします。先進国と開発途上国で水の問題の質や認識が大きく異なることにおどろきました」と感想を述べました。イラク戦争がはじまった3月20日には、ナイジェリアのテミダヨ・イスラエル・アブデュライくん（17）が、「戦争に使うお金を、水と衛生に関わる問題の解決のために使ってほしい」と語りました。

多くの子どもたちが、毎日水くみの仕事をしています。そのために学校に行く時間のない子どももいます

©UNICEF/HQ99-0646/Giacomo Pirozzi

©ガールスカウト

©ガールスカウト

参加した各国の子どもと若者たちは、3月21日、最終文書『子ども水宣言』を発表しました。『子ども水宣言』は、国の政策を決める人びとに、子どもの権利条約にしたがって、子どもと若者がすこやかに育つことのできる安全な環境をつくり、子どもと若者の参加や保護、生存、発達を確保することを求めました。記者会見にのぞんだカナダのジャフリン・タルクデールさん（13）は、「先進国は水を浪費しています。私たちはもっと節水を心がけるべきです」と話しました。また、バングラデシュのファズレ・ラビーくん（14）は、「文化、宗教の違いを乗りこえて、水と衛生に関する問題解決の方法を話し合うことができました。子どももおとなも、みんな協力してほしい」とうったえました。日本からの参加者のひとりである南部玲生くん（14）は、故郷の北海道の自然について語り、「子どもたちに美しい水、そして自然を残すことができるよう、おとなたちに呼びかけたい」と話しました。

参加した子どもと若者たち　©ガールスカウト

Report 大鳥由香子さんからの報告

「世界子ども水フォーラム」には、109人の子どもたちが参加し、日本からの参加者は50人でした。このフォーラムは、「第3回世界水フォーラム」の主要プログラムとして、子どもと若者が水と衛生に関する問題についての知識を深め、それぞれの意見や体験を交換し、子どもと若者の意見をコミュニティーや地域における意思決定により多く反映させることを目的としていました。

2日間の準備期間の後、20日から2日間にわたって本会議がひらかれ、右の4つについての報告と話し合いがおこなわれました。

① 家庭における水の確保
② 学校環境での水と衛生
③ 水にまつわる危機
④ 水と自然・遊び・文化

分科会で報告された、世界各地の水問題は多岐にわたり、参加者の意識の溝は非常に大きいものでした。同時に、宣言文の起草、文化、評価、メディアの4つの委員会がつくられました。

21日に2日間の成果である、『子ども水宣言』を採択して本会議は終了しました。宣言には、水と衛生に関する設備を改善すること、国際的な子どものネットワークをつくること、政府の意思決定に子どもたちを関与させること、などがふくまれました。

中央が大鳥さん

『子ども水宣言』の主張

＊ 政府は次のようなことをおこなう義務があります

- 水にかかわる計画をたてたり、実行したり、評価したりするときに、子どもや若者が参加できるようにする
- とくに女の子が学校を途中でやめなくてすむように、学校の水と衛生の施設ために十分な予算をとる
- 先進工業国と開発途上国の間で、水に関する情報・技術・経験を共有できるようにする
- 緊急事態にそなえて、社会のさまざまな基盤やサービスを整備する
- 水についての子どもと若者の意見や、異なる文化を大切にし、子どもたちが遊べる安全な水辺を整備する
- 子どもたちや学校の先生、親、地域のリーダーなどのために、水に関する課題について環境教育をすすめる
- 水と環境についての子どもと若者のプロジェクトや活動を支援する

＊ そして、子どもと若者は次のようなことを約束します

- 水や衛生についての活動を地域や国内、そして国際的におこなうために、グループやネットワークをつくる
- 子どもにやさしい資料をつくったり、おしばいや詩、絵、ウェブサイトなどをつかったりして、子どもたちが水や衛生について学習し、意識を高められるようにする
- 農村や都市、地域社会で、水と衛生の施設を改善するように、政府などにはたらきかける
- 子どもが運営する水と衛生のプロジェクトなどの計画、実行、評価に参加する

（宣言文から抜粋・要約）

Report 吉田倫哉くんからの報告

吉田くん

『閣僚との対話』プログラムに参加しました。これは、国内外のNGO関係者・一般参加者600名と世界各国から参加している閣僚が直接を意見を交換できる唯一のプログラムでした。「世界子ども水フォーラム」からは、ケニアのイボンヌさん、マリのアダムさん、そしてぼくが代表で参加しました。

ここで話し合われたテーマは、「世界水フォーラムが終わってから、政府・民間・市民などの各セクターがどういう取り組みをするか」でした。ぼくのテーブルには、4人の一般参加者代表と2人の閣僚が参加し、「忌憚のない（遠慮のない）」意見を交換するかたちでした。しかし、「水道を民営化したい」政府側と「したくない」NGOが対立したり、ありきたりな主張が乱立して、期待はずれな議論でした。

子どもは、勢いのあるおとなによってその存在を見えないものにされていました。たとえば、ぼくの主張は「水は人類すべてのものであるから、政策決定に一部のおとなたちだけではなく、未来から来ている子どもも関わっていくべき」というものでしたが、ある政府の高官は、それは教育などキャパシティー・ビルディング（能力向上・開発）の問題だ、とぼくの主張をよく話し合いもせず退けました。怒りとともに無力感を感じました。おとなたちはそうやって意味のわからない言葉を使ってごまかすのです。

ぼくは、正直にいって、無気力におちいっています。おとなになりつつある自分、つまり無責任なおとなに近づく自分はこれからどうすべきか見えないからです。しかし閣僚だけにまかせていては、決して明るい未来は望めないことは確かです。政府だけではなく、私たち市民も、より大きな視点をもたなければなりません。ありきたりな主張を並べるだけでは不十分です。巨大な力の根源には本当は何があるのか、また人類はどこへいこうとするのかを大いに議論することが必要です。たとえ理想論者だと言われようとも、私たちは未来へ希望をつなげるために、本当は何をしなければいけないか、という問いをもち続けなければなりません。子どもが政策の意思決定に関わっていくことは、非常に高い、むずかしいハードルです。しかし未来を担う子どもや若者自身が自らの世界を守りたいという純粋な思いを持ち続けること、それがとても大切であると教えられました。

国連ミレニアム開発目標*の中にも、水と衛生についての目標が定められています

井戸から水をくむアフガニスタンの子どもたち
©UNICEF/HQ01-0295/Shehzad Noorani

- 適切な飲み水が手に入れられない人の割合を2015年までに半分にへらす
- 適切な衛生施設（トイレなど）のない人の割合を2015年までに半分にへらす
- 2005年までに小学校と中学校での男女の格差をなくす

（たとえば、学校には男子トイレも女子トイレも整える必要があります）

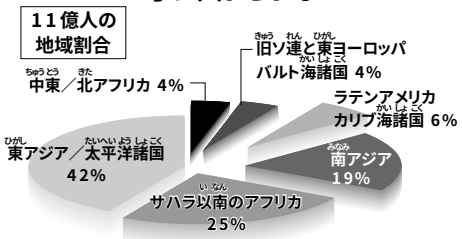
＊国連ミレニアム開発目標
世紀が変わるのを前に2000年に国連がさだめた世界全体の目標

どの地域の人びとが、水や衛生施設の不足に困っているのでしょう？

安全な飲み水

世界では11億人が安全な水を手に入れられない

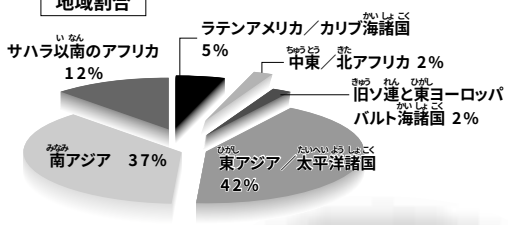
11億人の地域割合



衛生施設（トイレなど）

世界では24億人が衛生施設のない生活をしている

24億人の地域割合



©ガールスカウト

大きな井戸から水をくみあげるソマリアの女性や子どもたち。井戸にはおおいもなく、安全な水とはいえません。
また、アフリカ諸国では、ひどい干ばつが起こっており、人びとが日常で使う水の質が悪くなっているだけではなく、畑の作物にも大きな被害が出て、食料危機がおこっています。
©UNICEF/HQ00-0483/Radhika Chalasani

大鳥さん、吉田くんの感想

このフォーラムを通して、私は私たちの生活に欠かせない「水」についての世界のさまざまな実情と課題についての知識を得て、水問題に対する意識の向上をはじめとして、多くのことを学んだ。宣言文を起草する委員会に入ったものの、発言できなかったりと残念なこともあった。しかし、人間と水をふくむさまざまな資源、自然との関係が見直され、共生をめざしている現代社会の一員としての自分自身のあり方についての考えを深めることなど、得たものは数しれない。

プログラム時間外には、宿泊の部屋が同じだった韓国やインドネシアの参加者と学校や文化に関してのさまざまな話をしていることが多かった。ほかにも、歌やダンスをおたがいに教えあったりした。言葉の壁はあまり気にしないようにして、自分の意思や意見をできる限り正確に伝え、相手の考えを知ることにつとめた。言葉よりもむしろ、無意識的な態度が多くコミュニケーションに影響を与えることを改めて認識した。

フォーラムで何度もいわれた“水へのアクセス（水を手に入れること）”は人間の生活には欠かせない。すべての人の水へのアクセスが可能になるようにすることは私たちの義務だといえるだろう。水問題は私たちの存在と社会の基盤に深くかかわる複雑なもので、その解決にはこれからも子ども、おとなを問わず、それぞれの関心と努力が欠かせないことをフォーラムを通して痛感した。子どもが、今回のフォーラムで水問題について意見を表明する機会を、十分ではなかったとはいえ、与えられたように、子ども参加が社会のさまざまな面で尊重されること、子ども参加が水問題をはじめとする種々の課題に対しての効果的な行動となっていくことを期待したい。（大鳥　由香子）

『世界子ども水フォーラム』には、私たちのように子どもの権利に取り組んできた人だけではなく、川遊びをしたり環境問題に取り組んできたような、いろんなバックグラウンドを持った子どもが参加しました。

このフォーラムには、少し厳しい評価をしなければならないと思っています。子どもの参加といいますが、明らかに子どもが政治的に利用されたと思える場面がありましたし、私にはそれがショックでした。たとえば、『アナン国連事務総長夫人との交流会』があったのですが、いかにもアナン夫人と子どもたちが同じフレームに入った写真をとるためのものであることが見え見えでした。しかるべき通訳も置かず、多くの子どもは何が起こっているかわからず、声をあげることもできぬまま、プログラムは強引に進められました。

また、多くの日本の子どもたちが議論したかったのは『水の文化性』です。川遊びや河川調査を継続的にしてきた人にしてみれば、もっともです。実は多くの国では、川は不衛生で汚染されていることが多く、『川で遊ぶ』ことはあまりすすめられていないそうです。文化や考えを交換することが目的の今回の会議でしたが、最終アピールは、ユニセフが主張するような方向、つまり文化の水と生存のための水をくらべると、生存のための水の問題が優先される、というりくつで進められました。本来、それらは同じ土俵で語ることはできないと考えていたので、残念でした。

それから、期間中にイラク戦争が始まり、とても残念でした。イラクの人びとの命が失われる…それは戦争を経験した国からきている子どもたちにとって、自分自身の痛みでした。私たちは黙祷をささげました。まさに、子どもフォーラムで『水は命』というスローガンで話し合いがおこなわれていたそのときでした。10年前まで戦争状態にあったシエラレオネからの参加者は「戦争で使われる爆薬に含まれる毒が水にとけ出し、水は命をうばうものとなります」と主張していました。また、水フォーラムの報道は新聞の一面から国際面に追いやられ、数十年のうちに危機的な状況におちいる水の環境について、政府だけではなく多くの市民が参加して話し合ったイベントへの注目度が下がってしまいました。

否定的な評価をしてしまいましたが、未来の政策を左右する重要な会議に子どもが参加できたことは積極的に評価されると思います。個人的には世界のみんなと率直に話ができたし、多くの友達ができてよかったと思っています。『子ども参加』をホンキで考える必要を感じさせた会議でした。（吉田倫哉）

REPORT & INFORMATION 報告とお知らせ

お問い合わせ・もうしこみは
ユニセフ子どもネット事務局
(日本ユニセフ協会 広報室内)
住　所：〒108-8607
東京都港区高輪4-6-12
でんわ：03-5789-2016
ファックス：03-5789-2036
電子メール：jcuinfo@unicef.or.jp

お知らせ Information

参加者募集 ユニセフ・エジプト事務所の日本人スタッフとメールでインタビュー＆意見交換

ピラミッドで有名な国、エジプト。ユニセフはここでも活動しています。エジプトはアラブ諸国の中でも重要な役割をになっていて、今回のイラク戦争でもその動向が注目されてきました。

エジプトはイスラムの国です。イラク戦争やテロ事件など、イスラムのことをこうしたニュースの中で聞くことが多いかもしれませんね。ところで、イスラムの人びとはどんな生活をしていて、どんなことを考えているのでしょう。そもそも、イスラムって何？

今回、ユニセフ・エジプト事務所の大澤祐子さんが、メールでみなさんの質問に答えたり、みなさんとの意見交換に参加したりしてくれることになりました。7月後半の1週間に、ユニセフ子どもネットのメーリングリストを使って、大澤さんとのインタビュー＆意見交換をおこないます。イスラムやエジプトに興味を持っているみなさん、エジプトでユニセフがどのような活動をしているのか知りたいみなさん、この機会に、疑問に思っていたことを何でも聞いてみたり、自分たちの意見や考えを聞いてもらったりしましょう。

エジプトの子どもたち
©UNICEF/HQ96-1054/Nicole Toutounji

また、この企画の中心になる企画委員になってくれるネットワーカーを募集します。役割は、最初の質問を考えて、中心となって大澤さんとのやりとりを進めたり、インタビューや意見交換の内容を後でユニセフ「子どもネットニュース」の記事にまとめたりです。

インタビュー期間

- 7月後半の1週間
  (くわしい日程はのちほどご連絡します)

参加できる人

- 自宅または学校などで電子メールを使える人でユニセフ子どもネットのメーリングリストに参加している人
  (これからメーリングリストに参加したいという人は、ユニセフ子どもネット事務局までご連絡ください)

企画委員のもうしこみ

- 以下を書いて、メールでjcuinfo@unicef.or.jpまで送ってください。
  1) お名前　ネットワーカー番号
  2) 大澤さんに聞いてみたいこと
  (企画についての案があればいっしょに書いてください)

参加者募集 ユニセフ子どもネット＠北海道

北海道のユニセフ子どもネットワーカーの有志が、8月9日に札幌で、高校生を対象にさまざまなことについて意見を言い合うフォーラムを計画しています。

「自分の人生に、社会に何を求めてるんだろう？　そのためにどのように生き、行動し、何ができるのかな？　ほかの国の子どもたちはどのような人生を歩んでいるんだろう？」

さまざまな参加者が集まって意見を交換する中で、これからの活動や何かが見えてくるかもしれません。お友達にも声をかけて、ぜひ参加してください。

日　時：2003年8月9日(土) 午前11:00～午後2:45
会　場：札幌市民会館　2階会議室
対　象：高校生(子どもネットワーカー以外でもOKです)
当日は昼食を持参してください。

※参加希望者は、ユニセフ子どもネット事務局に、電話・ファックス・メールなどで申し込んでください。

報告 Report

学習会 ユニセフ子どもネット＠九州 第4回学習会報告

4月5日、ぼくたち九州に住んでいるネットワーカーは福岡で学習会をおこないました。

今回は、東京から日本ユニセフ協会 広報室の森田さんが来てくれました。自己紹介から始めて、続いて森田さんから「権利(人権)」に関して基本的なことを学びました。また、ゲームを通して「権利感覚」を実感しました。

次に、子どもの人身売買やCSEC(子どもの商業的性的搾取)についてお話を聞き、みんなでその原因や解決方法を話し合いました。その結果、原因は「すべてのものが商品として取引されてしまう社会」ということにたどり着きました。また、解決策は「教育と心への働きかけ、そして貧困をなくすための経済支援も必要」だということに結論に達しました。その後、今後の活動などを話し合いました。

今回は、これまでにできなかったことや積極的な話し合いができました。また、これまで知らなかったことや学校では勉強できないことも、たくさん知ることができてよかったです。

(報告：秦　聖一郎　17歳)

展示 日本橋図書館で子どもの権利について展示会をひらきました！

ユニセフ子どもネットワーカーの小張真理子さんは、「子どもの権利」を知らせたい中学生や高校生と一緒に『知ろうよ！子どものけんり展～今を生きる子どもたち～』を、3月29日から4月12日まで、東京の日本橋図書館でひらきました。児童労働について調べた資料や、日本ユニセフ協会などで集めた資料などを、みんなで協力してたくさん展示しました。ちょうど企画を考えていたときにイラク戦争がはじまったので、「戦争がおきたら子どもたちがどうなってしまうか」ということをみんなに知らせたくて、劣化ウラン弾や子どもの兵士について調べたことや、イラクの子どもたちの絵なども展示しました。

LETTERS ユニセフ子どもネットニュースNO.4を読んで ネットワーカーからの感想

●出生登録というものがあることを始めて知りました。出生登録をしないと存在が認められないこともわかり、大事なことなんだなぁと思いました。世界の人びと全員が、いろいろな権利を持ち、世界から認められてほしいです。
(原口　紗耶加　12歳)

●「子ども参加」のほんのちょっとしたことでもちゃんと「参加」なんだなと思った。学校で先生が独断で決めてしまい、話し合いの意味がなくなったときに、そんなときは「子ども参加」の権利というか、そういうのが無視されてるかも…と思った。　(山田　莉可　12歳)

●一番心に残ったのは出生登録についてです。私達には当たり前のことが、できない人がたくさんいるってことを改めて感じました。登録をしていないだけで、自分の存在がなくなると思うとすごく悲しいです。
(杉浦　綾子　13歳)

●「子ども参加」に関するアンケートを読んで、少し元気がわいた。みんないろいろなことを考えているんだなと思った。それに、いろいろなところで自分の意見を持ち、伝えようとしていることがわかり、私もがんばろうと思った。これからも、こんな風なアンケートをしてほしいと思う。
(上野　結　16歳)